

瑞穂町多世代交流センター 管理運営計画

令和7年3月

瑞 穂 町

目次

はじめに	1
第 1 章 管理運営計画について	2
1-1 策定の目的	2
1-2 策定の背景	2
1-3 本計画の位置付け	3
1-4 策定までの経緯と予定	4
第 2 章 本施設のコンセプト	7
2-1 メインコンセプト	7
2-2 基本方針	7
2-3 施設の役割	8
2-4 施設名称(愛称)	9
第 3 章 施設の概要	11
3-1 施設概要	11
3-2 フloor図	12
3-3 各室の概要	13
3-4 施設の機能	14
3-5 ロゴ・サイン計画	18
第 4 章 施設運営計画	19
4-1 運営体制	19
4-2 開館時間及び休館日	20
4-3 全施設の利用ルール	20
4-4 貸室の申請手続き	21
4-5 収支計画	22
第 5 章 施設管理計画	23
5-1 安全対策の取組	23
5-2 設備の保守管理	23
5-3 災害時の対応・避難計画	24
第 6 章 事業計画	25
6-1 ICT 活用の事業	26
6-2 農園活用の事業	27
6-3 住民との協働事業	33
6-4 評価について	33
資 料 編	35
資料編 1 ワークショップの記録	36
資料編 2 事業計画	55

はじめに

町では、「公共施設等総合管理計画」(平成29年3月策定、令和4年3月改定)において、施設の更新にあたっては複合化・多機能化又は民間活力の導入を含め、新たなニーズにも対応できるよう身の丈に合った施設整備を目指し、町の長期的な施策を考慮したうえで検討するという方針を定めています。

本施設はこの方針に基づき、改修前の高齢者福祉センター機能に多世代交流機能と学童保育クラブ機能を加え、複合施設として整備されます。

施設の運営・管理は民間活力の導入を予定しており、開所後は多くの人の利用と地域の交流の場として発展していくことが期待されています。

第1章 管理運営計画について

1-1 策定の目的

本施設は高齢者だけではなく、子どもたち、若者、子育て世代など幅広い世代が利用でき、地域の交流拠点と居場所として親しまれる施設を目指すと同時に、今まで学校からの距離が遠く、移動時の子どもたちの安全確保に課題があるとされた、あすなろ児童館内に設置されていた瑞穂第五小学校の学童保育クラブを移設し、子どもたちの安全と保育環境の改善を図ります。

改修後の施設をどのように運営・管理していくのか、さまざまな観点から整理し、具現化するために本計画を策定しました。

1-2 策定の背景

町では、令和3年3月に策定した第5次瑞穂町長期総合計画において、重視すべき視点のひとつとして「つながる地域づくり」を掲げ、個人個人の感覚に合った距離感を持ちながら、支え合うことができる関係が構築され、地域でのゆるやかな人間関係が形成されている姿を目指しています。

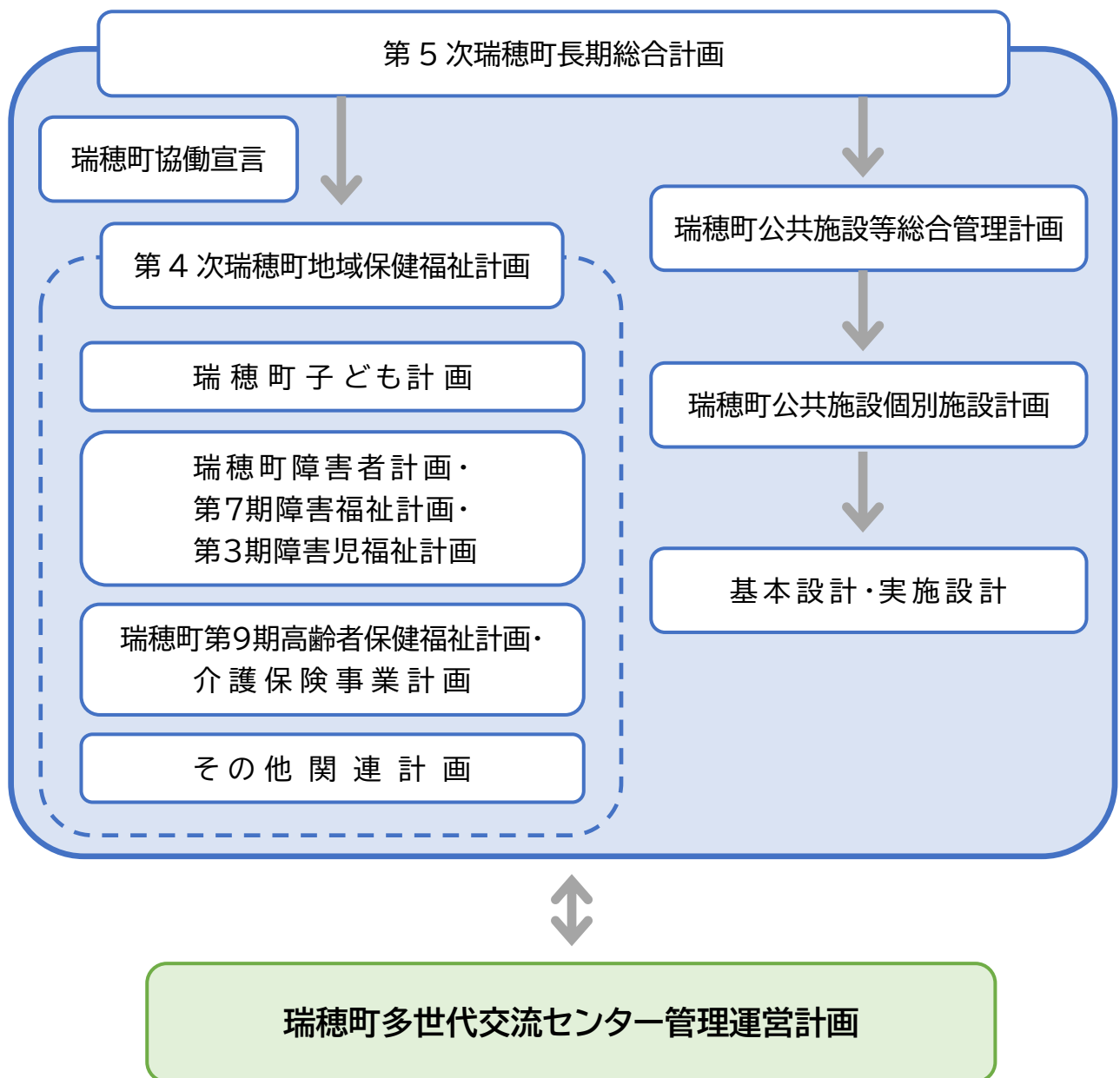
本施設では、超少子高齢社会の進展や家族構成の変化(核家族・ひとり暮らし世帯の増加等)といった社会的な課題に対して、複合化を契機に地域住民のコミュニケーションの場や、多世代交流のきっかけをつくることで、地域の人と人とのつながりを創出することを目指しています。

これらの背景を踏まえ、本計画を策定しています。

1-3 本計画の位置付け

本施設は、多世代交流機能、学童保育クラブ機能、高齢者福祉センター機能を有する複合的な施設であり、みんなの居場所となる施設です。

本計画は、上位計画である「第5次瑞穂町長期総合計画」や別途策定されている計画と整合を図りながら、『地域を耕す、みんなの居場所』としての役割を果たすため、管理運営計画として整理します。



1-4 策定までの経緯と予定

(1)事業着手(令和4年6月)

公共施設の複合化を図り、財政運営の効率化、安全性の確保に向けた庁内での基本方針を決定し、新たな交流の拠点として、高齢者福祉センターの大規模改修事業を開始しました。

(2)基本設計・実施設計(令和4年8月～令和5年9月)

基本方針を基に、瑞穂町高齢者福祉センター改修工事の基本設計・実施設計を担う事業者を公募型プロポーザルにより選定しました。

令和5年1月に基本方針としてコンセプトを整理し、庁内での検討を踏まえ、建築諸条件や建物概要、設備概要をまとめた基本設計及び基本設計説明書(案)を作成しました。

基本設計説明書(案)は、住民などから意見募集を行い、意見を反映した上で令和5年3月に基本設計説明書を作成しました。

(3)講演会の実施(令和4年9月～令和5年5月)

瑞穂町で初めての複合施設整備のため、庁内の職員や住民向けに講演会を計4回実施し、施設の実施設計や今後の運営を考える上で参考にしました。

- ・ 講演会「新しい公共空間 わたしの居場所」

開催日:令和4年9月25日

講師:三浦丈典氏(建築家、株式会社スターパイロッツ代表)

内容:全国の複合施設の事例を紹介し、瑞穂町に置きかえたときにどのような施設になるかイメージを膨らませる講演

- ・ 講演会「わたしがつくるパブリック ネットワークとはじめの一步」

開催日:令和4年12月18日

講師:永井大輔氏(イオンタウン株式会社 新業態推進部 おひさまテラス統括マネージャー)

三浦丈典氏(建築家、株式会社スターパイロッツ代表)

内 容:複合施設の楽しさ、豊かさとはどのようなものか、等身大の一人称としてパブリック(公共)をつくるプロセスを講演と対談形式での事例紹介

- ・ 講演会「気かけあうまちをつくる 多世代交流の実践」

開催日:令和5年1月28日

講 師:馬場拓也氏(社会福祉法人愛川舜寿会 常務理事)

内 容:特別養護老人ホームを囲む壁を取り払うことで、まちへ開いた「福祉・介護」がどのように地域とつながり、地域コミュニティへどのような化学変化を与えたか、福祉と地域コミュニティという観点から講演

- ・ 講演会「ひと・建物・まちの価値を高めるために 地域とつながる公共施設」

開催日:令和5年5月20日

講 師:田中元子氏(株式会社グランドレベル 代表取締役社長)

三浦丈典氏(建築家、株式会社スターパイロッツ代表)

内 容:これからの瑞穂町に必要な人々の居場所について、未来の暮らしのヒントになるよう、パブリックの意味や人が集う仕組みについての講演

(4)維持管理及び運営手法に係るサウンディング型市場調査実施

(令和5年5月～8月)

施設の維持管理及び運営体系の手法、多世代交流エリアを中心とした住民活動の推進及び施設の賑わいの創出、地域の活性化について、民間事業者との対話によるサウンディング型市場調査を実施しました。市場性の確認、参入しやすい公募条件の整理、地域住民の活動団体の育成及び施設の賑わい創設などのアイデアを把握するため、事業者ごとに、個別に意見交換を行い、結果を公表しました。

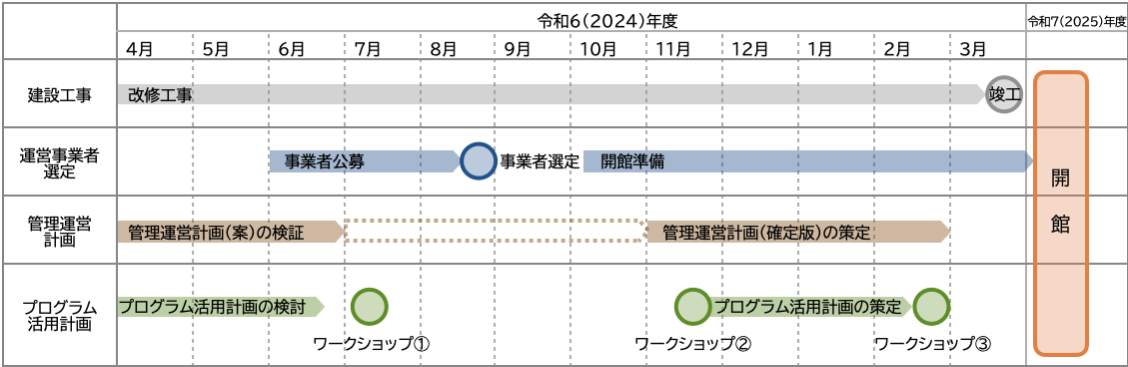
(5)大規模改修工事(令和5年12月～令和7年3月)

実施設計に基づき、令和5年度から令和6年度の15か月で改修工事を実施しました。

(6)運営事業者の決定(令和6年9月)

基本方針を基に、瑞穂町多世代交流センターMIZCUL(ミズカル)を担う事業者を指定管理者選定委員会で選定し、議会の議決を経て決定しました。

(7)開館までのスケジュール



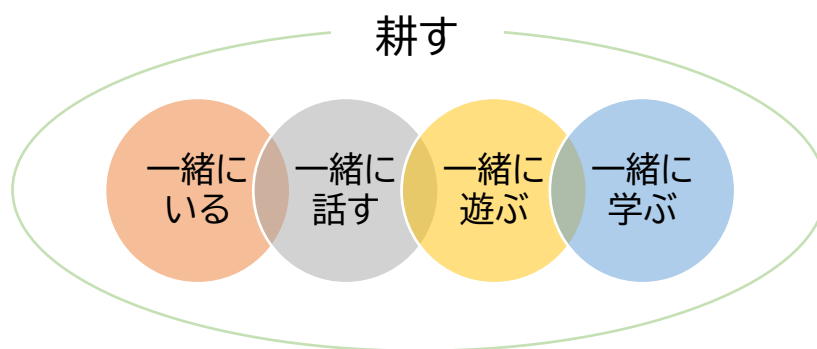
第2章 本施設のコンセプト

2-1 メインコンセプト

地域を耕す、みんなの居場所

「居場所」とは高齢者、子ども、障がいのある方、そして多様な住民が、日常的に「共に在る」ことができる場です。そして、在り方の多様性を受け入れる場です。この施設が、住民にとって居場所だと思える場所になることで、コミュニケーションが生まれ、人と人とのつながりが創出される場になることを目指します。本施設での交流や活動を通じて、土を耕し柔らかくするように、コミュニティを柔らかくし、豊かな地域へとつなげていきます。

2-2 基本方針



この施設での利用者の過ごし方として「一緒にいる」「一緒に話す」「一緒に遊ぶ」「一緒に学ぶ」を基本方針として掲げます。「多世代交流拠点」の「交流」の意味には、多様性や段階的なステップがあると考えます。ただ居る、気にかかる、目を合わす、笑顔を交わす、といった控えめな参加から始まり、互いに支え合いながら、主体的な活動へと、それぞれのペースで歩いていく場をつくります。そして、こうした交流や活動を通して、この場が耕されていき、町全体に広がっていくことを目指します。

2-3 施設の役割

この施設が果たすべき役割

1 だれもが自分の居場所と感じられる開かれた施設

- 家、学校、職場以外の、自分の居場所と感じられる場であること。
- 年齢や立場に関係なく、誰もが滞在し、参加できる開かれた場であること。

2 さまざまな世代が交流できる地域拠点となる施設

- 子どもから高齢者まで、さまざまな世代が交流する機会をつくるとともに地域のつながりを育てていくこと。

3 子どもから高齢者までだれもが自主的に活動を行える施設

- 自分の興味関心や自己実現に向けた、自主的な活動を支える場であること。
- だんだん畑や厨房を活用した住民参画を推進すること。

4 安全・安心で利用しやすい施設

- 安全・安心を最優先にバリアフリーなどに配慮して、利用しやすい施設であること。
- 二次避難所(福祉避難所)としての必要な設備・体制を有すること。

2-4 施設名称(愛称)

多世代交流施設として、地域住民に愛される施設とするため、愛称は住民意見を反映して決定しました。施設コンセプトを基に提案された6つの愛称候補への住民による投票を行い、多世代から最も支持された「MIZCUL(ミズカル)」が愛称に決定しました。

(1)選定方法と期間

令和6年4月1日から22日までの期間に住民による投票を行いました。

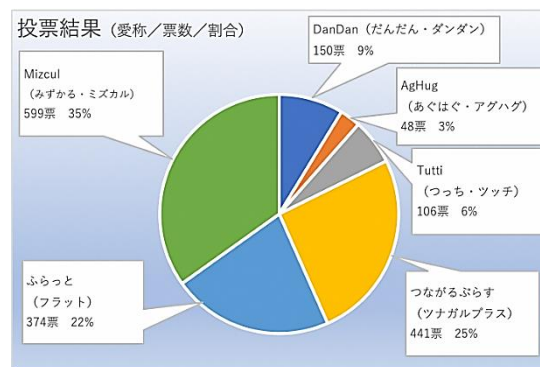
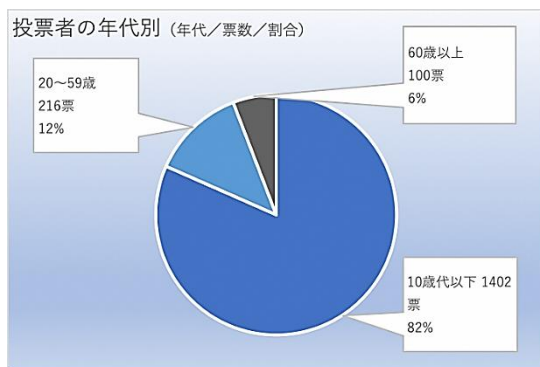
(2)愛称候補

	愛称候補		意味・由来
	英字・かな	カナ	
1	DanDan	ダンダン	だんだん畑、団らん、暖かい、だんだん広がるなどの思い
2	AgHug	アグハグ	アグリヒーリング+育む+抱きしめる
3	Tutti	ツッチ	だんだん畑より 土＝農をキャッチーにネーミング、思わず口ずさみたくなる愛称
4	つながる ぷらす	ツナガル プラス	人と人とがつながる場所、つながることで新しいプラスのことが生まれる場所
5	ふらっと	フラット	ふらっと寄れる場所、誰もが平等で居られる場所、音符のフラットから引用
6	Mizcul	ミズカル	「みずほ」+culture(文化)+cultivate(共に耕す)

(3)結果

投票総数1,718票のうち599票を獲得し、10代から60歳以上まで幅広い世代に支持された「みずかる(ミズカル)」が愛称に決定しました。

	愛称候補		得票数
1	みずかる	ミズカル	599(35%)
2	つながるぷらす	ツナガルプラス	441(25%)
3	ふらっと	フラット	374(22%)
4	その他		304(18%)
計			1,718(100%)



(4)表記

表記については、ロゴマークのデザインとの整合性も考慮して、英字の大文字表記「MIZCUL(ミズカル)」と確定しました。

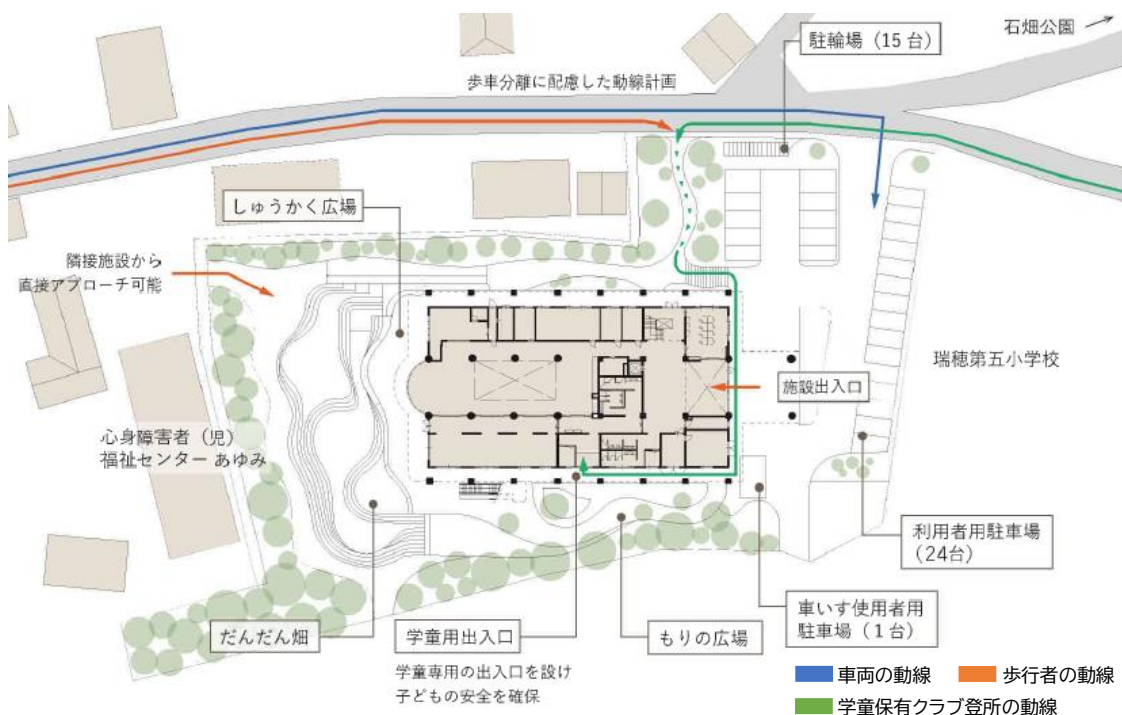
MIZCUL

第3章 施設の概要

3-1 施設概要

多世代交流施設

所在地	東京都西多摩郡瑞穂町大字殿ヶ谷1106番地
敷地面積	4,979.67㎡
区域区分	市街化区域
用途地域	第1種低層住居専用地域
建ぺい率	40%
容 積 率	80%
主要用途	集会所、児童厚生施設(建築基準法上の区分)など
建築面積	1,240.00㎡
延床面積	1,827.88㎡(1階:962.21㎡ 2階:855.67㎡ R階:10.00㎡)
構 造	鉄筋コンクリート造
階 数	地上2階
駐車場等	駐車場25台(うち車いす使用者用1台)、駐輪場15台



3-3 各室の概要

1階

室名	面積(㎡)	使用人数 の目安	用途
学童保育クラブ	158.45	50	学童保育室
厨房	38.28		調理など
創作ルーム	14.25	7	工作、裁縫など
ダンススタジオ	42.75	14	ダンス、バレエ、ヨガなど
パブリックスペース (オープンキッチン)	248.88		談話、休憩、ワーキングスペース、 学習、交流など (誰もが利用できるスペース)
音楽スタジオ1	12.82	4	吹奏楽、声楽など
音楽スタジオ2	15.67	5	バンド、吹奏楽、声楽など

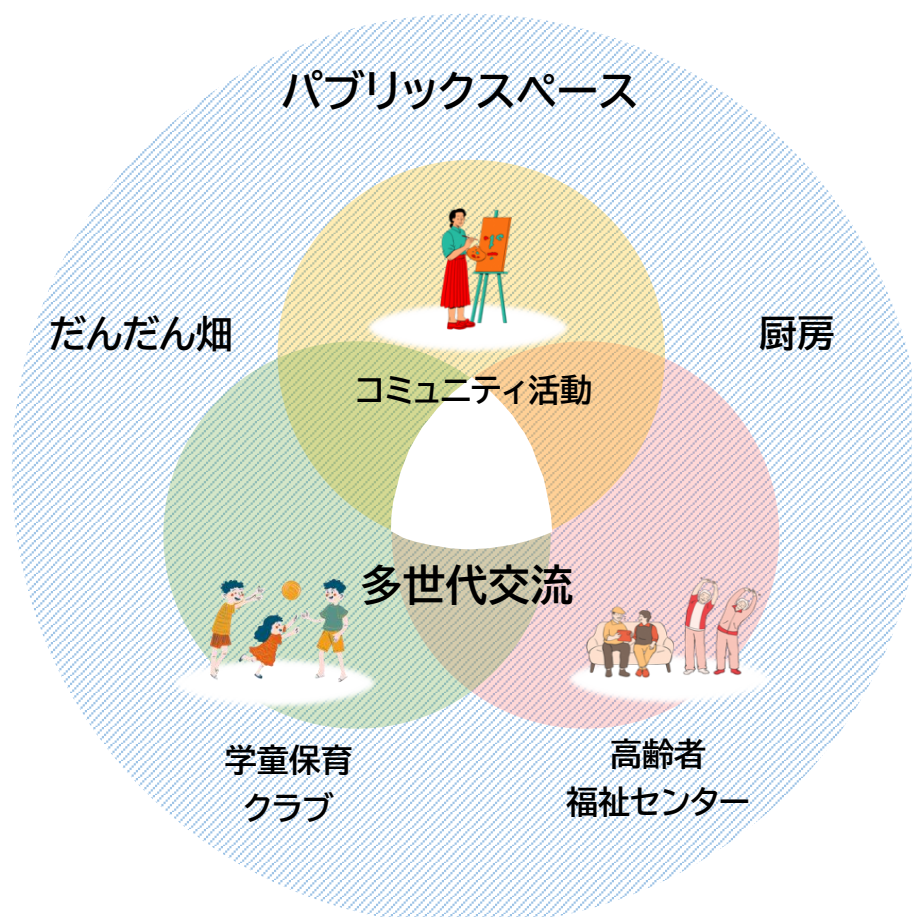
2階

室名	面積(㎡)	使用人数 の目安	用途
会議室	45.30	22	会議、研修、講座など
ラウンジ	174.26		談話、休憩、マッサージ機利用、 交流など
多目的ひろば	67.50	22	健康体操や軽運動
多目的室1 (キッチンあり)	90.60	45	会議、講座など
多目的室2	45.30	22	会議、健康体操、趣味活動など
多目的室3	45.30	22	会議、健康体操、絵画、趣味活動 など
多目的室4	27.93	13	将棋、麻雀、趣味活動など
多目的室5	45.30	22	会議、健康体操、趣味活動など
多目的室6	45.30	22	会議、健康体操、絵画、趣味活動 など

3-4 施設の機能

本施設には高齢者福祉センターと学童保育クラブが含まれますが、専用スペース以外は、年齢や所属に関係なく誰もが利用できる多世代交流のスペースとなっています。

高齢者福祉センター、学童保育クラブ、ダンススタジオや創作ルームなどの貸室でのコミュニティ活動では、世代ごとの活動がありつつも、それらをつなぐパブリックスペースによって、多世代が交わる機会をつくっていきます。また、だんだん畑や厨房などの機能を生かして、多世代が一堂に会する機会や、それぞれの活動の様子が可視化される場を創出します。



【高齢者福祉センター】

利用対象者が、健康づくりや趣味・生きがい活動を行うスペースです。町の寿クラブ(老人クラブ)やサークル活動などで利用できる多目的室や、休息の場としてラウンジなどが設置されています。多目的室1・2・3はスライディングウォールで仕切られているため、利用者の規模により部屋をつなげて使用することが可能です。(利用対象者:21ページの(1)貸室の利用料金の欄を参照)



多目的室とインナーバルコニー

【学童保育クラブ】

小学生の放課後の居場所や学びの場です。子どもたちが安心して過ごせることはもちろんですが、多世代交流施設の複合的な機能を生かし、子どもたちと多世代の交流などを通した学びの場の実現を目指します。約50～60人の子どもたちが利用することを想定した広さで、屋外にある「もりの広場」と一体的に利用することが可能です。



学童保育クラブエリア

【多世代交流エリア】

多世代交流エリアは、子どもから高齢者まで、誰もが利用できます。1階の広々としたパブリックスペースは、1人で勉強をしたり、のんびりと過ごしたり、誰かと集まって活動をしたり、または指定管理者がイベントなどを行うこともできる空間です。静寂とにぎやかさのどちらも共存する寛容で、利用者が自分らしく居心地良く過ごすことができるような場所にします。貸室では、会議室、創作ルーム、ダンススタジオ、音楽スタジオなど、用途に応じて思い思いの活動を行うことができます。



パブリックスペース

【オープンキッチン】

パブリックスペースに位置するオープンキッチンは、簡易なキッチンと流しが設置され、大きな調理台を囲んでみんなで料理や食事を楽しむことができます。

オープンキッチンは、施設全体のイベントでの活用を検討しています。例えば、畑で収穫した野菜をみんなで料理をして食べるなど、オープンな場所だからこそ、だれもが参加しやすいキッチンとしての活用を想定しています。



オープンキッチン

【厨房スペース】

本施設は、建築基準法上の用途規制があり、厨房スペースは、近隣住民を対象とした喫茶機能に限られます。厨房は、オープンキッチンよりも充実した調理器具を揃えたスペースです。来館者への喫茶の提供や施設のイベントなどでの利用を想定しています。

【だんだん畑】

本施設で新たに整備する「だんだん畑」は利用者と施設運営事業者が協働で運営する畑です。季節ごとに野菜などを栽培・収穫し、畑での農作業を通して多世代交流や地域の交流につなげていきます。近隣の小学校や、学童保育クラブなどの子どもたちが、身近に自然に触れる機会をつくり、農園での体験を通じて、豊かな学びと成長を促します。

瑞穂町ではお茶や花きの生産者が多く、最近では野菜ソムリエの資格を持つ若い新規就農者なども注目されています。また、西多摩地域唯一の農業系学科のある都立瑞穂農芸高校では、「瑞穂七色唐辛子」の企画・販売を通じた「江戸東京野菜プロジェクト」など地域振興活動を行っています。このような活動などを参考に多世代が楽しめる自主事業を開催します。



【だんだん畑】のイメージ

3-5 ロゴ・サイン計画

(1)ロゴ

施設のロゴマークは、いろいろな世代が集まって交流する場になることを願い、いろんな人々を個性ある「MIZCUL」の文字たちで表現し、集まるイメージを表現しています。使用の際は、「瑞穂町多世代交流センターMIZCUL(ミズカル)ロゴマーク使用のガイドライン」を守り運用します。



瑞穂町多世代交流センターミズカル



瑞穂町多世代交流センターミズカル

(2)サイン

施設のサインは、施設外からも目立ち、楽しげな雰囲気が伝わるようデザインしました。世代問わず認識しやすい案内を目指し、ユニバーサルデザインを意識しています。



第4章 施設運営計画

4-1運営体制

(1)指定管理者制度の導入

効率的かつ質の高いサービスの提供を図るため、本施設の運営方法については指定管理者制度を導入します。本施設は、複数の機能を有する複合施設のため、2者以上のコンソーシアム(共同事業体)による事業者への委託も可能とし、それぞれの強みや専門性をもつ事業者が協働で運営することで、各分野の専門性や相乗効果を高めるとともに、複合施設の一体的な運営を目指します。

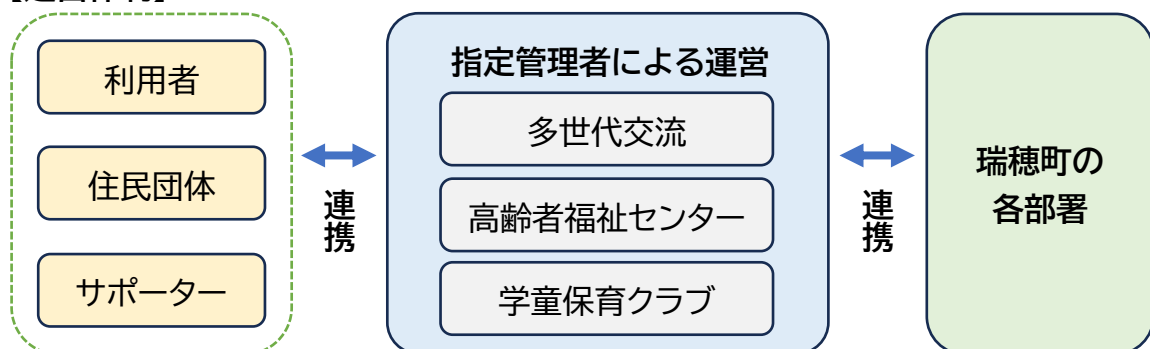
また、施設の管理や保守業務なども含めて委託することで、業務の重複を避け、運営の効率化を図ります。

運営にあたっては、本施設のメインコンセプトを踏まえ、住民と協働した施設運営を展開し、各機能の特性を十分認識し、効果が最大限発揮できるような運営能力を重視します。また、職員配置や組織及び運営体制の構築などを含め、管理運営計画に則った運営を実現できる事業者を選定します。

(2)住民との協働

多世代交流や居場所づくりにおいては、住民の主体的な参加による住民協働での運営が不可欠となります。瑞穂町の各部署や、指定管理者、住民が連携し、運営していきます。瑞穂町や、指定管理者は、そのための仕組みづくりの検討や、活動の支援を積極的に行います。

【運営体制】



※サポーターとは：本施設で実施する、さまざまな活動や事業（「第6章」参照）の企画や運営に参加する住民です。

4-2開館時間及び休館日

(1)開館時間

全館	午前9時～午後8時
多世代交流エリア	午前9時～午後8時
高齢者福祉センター	午前9時～午後8時
学童保育クラブ	学校がある通常の日 下校時～午後6時 学校がお休みの日 午前8時30分～午後6時 ※午後6時～7時、土曜日及び学校長期休業期間 中の午前8時～8時30分は延長保育を実施

(2)休館日

- ・ 毎月の第3日曜日
 - ・ 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで
- ※必要があると認めるときは、休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めます。

4-3 全施設の利用ルール

- ・ 施設内での飲料摂取はどこでも可能とします。ただし、管理者が実施するイベント以外での飲酒は禁止とします。
- ・ 机といすのあるスペース等では、食事も可能とします。ただし、他の利用者への影響のないように利用することとします。
- ・ 基本的にごみは持ち帰りとします。
- ・ 健康増進法により、児童福祉施設等(学童保育クラブ等)は敷地内禁煙であるため、本施設は敷地内禁煙とします。
- ・ 暴力行為、公序良俗を乱す行為等は禁止します。
- ・ 政治、宗教、信条に関わる、あらゆる勧誘行為を禁止します。
- ・ 管理者の許可のない刀剣類及びその他危険物の持ち込みは禁止します。
- ・ その他、町の条例等の定めに基づいた運営を行います。条例等の改正により、変更になる場合があります。

4-4貸室の申請手続き

(1)貸室の利用料金

	室名	午前9時～11時	午前11～午後1時	午後1～3時	午後3～5時	午後5～8時
多世代交流エリア	音楽スタジオ1	200円	200円	200円	200円	300円
	音楽スタジオ2	400円	400円	400円	400円	600円
	ダンススタジオ	600円	600円	600円	600円	900円
	創作ルーム	200円	200円	200円	200円	300円
	会議室	800円	800円	800円	800円	1,200円
	多目的室1	1,400円	1,400円	1,400円	1,400円	2,100円
高齢者福祉センター	多目的室 2・3・5・6	無料※	無料※	無料※	無料※	無料※ (1,200円)
	多目的室4	無料※	無料※	無料※	無料※	無料※ (600円)
	多目的ひろば	無料※	無料※	無料※	無料※	無料※ (1,500円)
	※高齢者福祉センターの利用対象は、町内在住の60歳以上の方です。ただし、夜間に限り、59歳以下の方も有料で利用できます。					

(2)減免規定

貸室の利用料金の減免は、町の利用料金算出の考え方及び類似施設を参考に、受益者負担の考え方も取り入れ、「瑞穂町多世代交流センターの設置及び管理に関する条例施行規則」に定めるとおりとします。

(3)利用申請手続き

貸室を利用するにあたっては、利用者登録を行うこととします。利用者登録や利用申請については、「瑞穂町多世代交流センターの設置及び管理に関する条例施行規則」に定めるとおりとします。

指定管理者は、施設予約管理システムを活用して、貸室の予約受付及び貸出管理などを行うこととします。

4-5 収支計画

(1)収支計画の基本的な考え方

複数の機能を一体化することで、光熱水費や人件費、施設管理費のコスト削減や相乗効果、また貸室利用や自主事業による収入増に努めます。一方で、新たな機能として、居場所づくりや多世代交流の創出があります。削減ができる部分と、新たに確保すべき部分のバランスを重視し検討していきます。

(2)想定収入

指 定 管 理 委 託 料	町から指定管理者への管理料
貸 室 利 用 料	貸室の利用料収入
自主事業による収入	イベントなど、自主事業による収入
そ の 他	自動販売機、各種手数料、雑収入など

(3)想定支出

事 業 費	事業の実施に係る経費
人 件 費	施設運営スタッフ
維 持 管 理 費	施設・備品などの維持管理、清掃、警備などに係る経費及び光熱水費
事 務 費	各種機器のリース代、消耗品費など

第5章 施設管理計画

施設利用者の特性を考慮の上、誰もが安心して快適に過ごせる施設となるため、リスクマネジメントに取り組み、また、危機には適切に対応し、利用者の安全確保に努めます。

災害時には、二次避難所(福祉避難所)として運用されることから、防火、防災、防犯などへ十分に配慮します。本章は、「瑞穂町公共施設個別施設計画」に基づき記載します。

5-1 安全対策の取組

利用者に安心して利用いただけるように、支援が必要な方には職員による声かけなどの対応を行います。

また、日頃から、不審物を発見しやすいように施設内の状態を良好に保ちます。さらに、資材等の保管については、避難や防災設備の作動の障害にならないよう配慮して整理します。

5-2 設備の保守管理

施設・設備の日常運転及び点検、定期保守、法令に基づく点検等すべての設備点検を行い、保守管理を適切に行います。

空調設備	専門業者による点検、特に夏季や冬季など設備負荷が増える前などの状態確認
電気設備	専門業者による点検、照明器具やコンセント部などの清掃
給排水衛生設備	衛生機器の清掃など
消防設備	法定点検、日常的な点検・整備
昇降設備	法定点検、日常的な点検・整備

※高齢者福祉センターの例(令和4年度)(年間点検)

消防設備点検(法定年 2 回)	2 回	エレベーター	12 回
冷暖房設備(法定年 1 回)	2 回	監視カメラ	1 回
自動ドア(法定外)	2 回	簡易専用水質検査	1 回
自家用電気工作物(法定年 6 回)	6 回	建築設備定期検査(法定年 1 回)	1 回

5-3 災害時の対応・避難計画

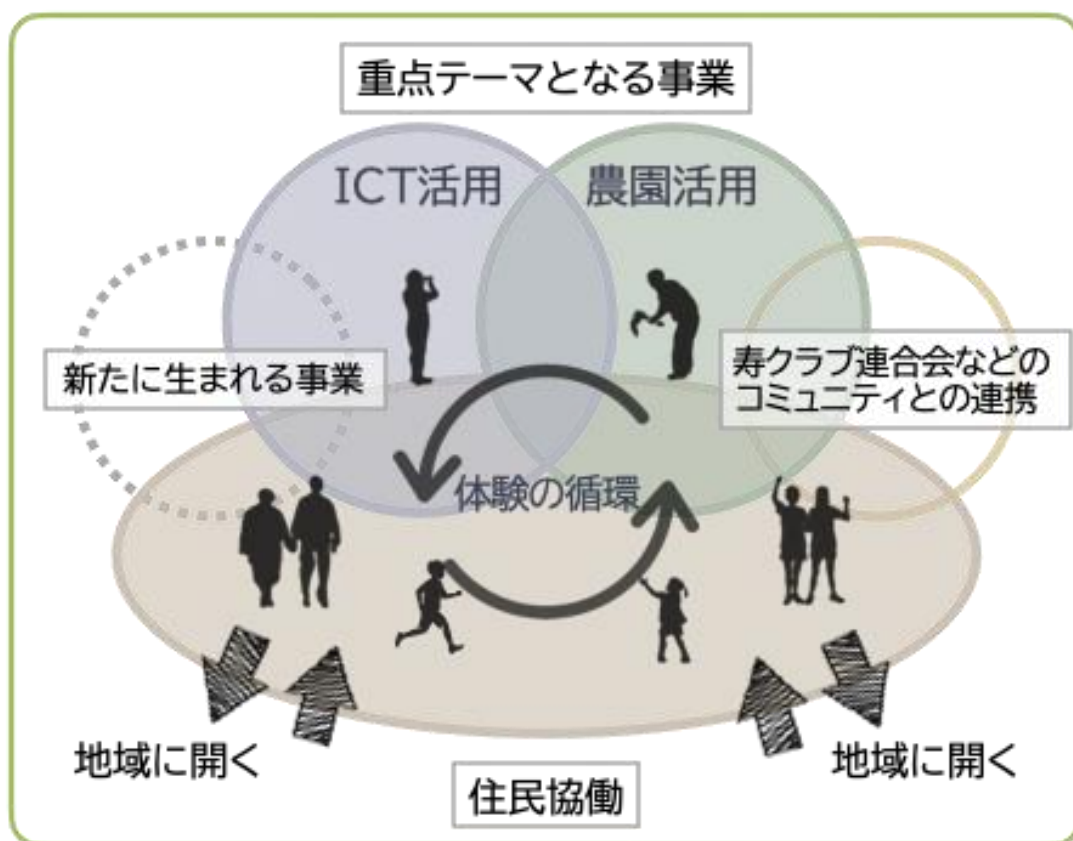
災害などの緊急時に備え、備品・設備の管理や点検、訓練を実施するなど、万全の体制を整えます。

また、本施設は「瑞穂町地域防災計画」において福祉避難所に指定されていることから、災害時には避難者を受け入れられるよう、LPガスの非常用発電機や備蓄倉庫など、福祉避難所として必要な設備や体制を整備します。また、「瑞穂町国土強靱化地域計画(基本計画編)」(令和3年3月策定)に基づき、緊急事態マニュアルを整備するなど、災害や事故などが発生した際は迅速に対応できる体制を整えます。

第6章 事業計画

事業全体として、次の目標を掲げます。

- 高齢者や地域の子どもが世代を超えて集う場として、共に楽しみ、共に学び、共に支え合い、共に成長することで、地域全体が豊かになることを目指します。
- ICT活用や農園活用を重点テーマとして、多世代が交流し、楽しみながら体験できる事業を実施します。
- 重点テーマとなる事業、既存のコミュニティ及び住民協働による事業が相互に連携して、多様な出会いの場と新たな事業の創出を目指します。



6-1 ICT活用の事業

(1)目的

「デジタルデバイド対策や高齢者のQOL向上」という事業目標に対して、高齢者が同じ世代や他の世代との交流を通じて、楽しみながら、日常の中でICTを活用していけるようになる、そのための事業の実施を目指します。それに伴い、ICT活用によって、より世代を超えた多様なコミュニケーションが生まれることも重要な目的となります。

(2)基本方針

コミュニケーションを促し、コミュニティを醸成するICT活用事業を実施していきます。

- 目的としてのICT活用ではなく、コミュニケーションの手段としての観点から調査分析を行います。
- 高齢者のモバイル機器やメディアへの敷居を下げ、手軽に楽しく利用できる機会をつくります。
- メディア×ICTの実践によって、地域の歴史と未来をつなぎ、高齢者と子どもの間にコミュニケーションを生み出します。こうしたコミュニケーションから高齢者のQOL向上につなげていきます。

(3)実施のイメージ

時代や世代を超えて、デジタルやアナログを超えてつながることができる写真を、「協働のためのメディア」として最大限活用します。

- Wi-Fi環境を生かし、高齢者を主な対象としたデジタルツール(スマートフォンやタブレットなど)の利用方法を学ぶ事業を実施します。単に操作方法を学ぶだけでなく、SNSなどを活用して家族や仲間、さらには異なる世代とのコミュニケーションを体験することで、楽しみながら自然に習得できるようにします。また、写真は時代や世代、デジタルとアナログの垣根を超えてつながることができるメディアであり、本施設における「協働のためのメディア」として有効で

す。写真の撮影、SNSへの投稿、リアル及びオンラインでの交流といったプロセスを通じて、ICT・デジタルを実践的に学べる環境を提供します。

- eスポーツを活用した多世代交流事業を実施します。eスポーツは、子どもから高齢者まで楽しめるツールであり、高齢者にとって新たな楽しみの創出や健康増進につながるとともに、多世代のコミュニケーションを促進します。
- スマートフォンアプリ「あるってこ」を活用した健康ポイント事業を推進し、住民の健康増進に寄与する取組を行います。

6-2 農園活用の事業

(1)目的

「瑞穂町高齢者福祉センター改修工事 基本設計」で示された、施設コンセプト「共創共耕の多世代交流拠点」の実現に向かい、「アグリヒーリング」の概念に則りながら、子どもから高齢者まで、瑞穂町らしい多世代交流を進めていくための事業の実施を目指します。

また、土の感触、葉っぱの質感(触覚)、花の香り、土のにおい(嗅覚)、収穫野菜の味の濃さ(味覚)、野菜の成長を観察(視覚)、風の音や鳥のさえずり(聴覚)など、環境を五感で享受する体験としての事業の実施を目指します。

(2)基本方針

五感で感じる体験としての次の農園活用事業を実施していきます。

- 「だんだん畑」を地域の「共創共耕」の場として、皆さんと共に育んでいきます。
- 地域の農業従事者との協働を大切に、地域の農と食の未来を共に考えます。

(3)実施のイメージ

みんなが集まり、共同作業により持続的に耕し、育てていく「だんだん畑」を「協働のためのフィールド」として最大限活用します。

- 令和6年度のワークショップで作成した農園計画(案)を基に、「だんだん畑」に

において野菜や果物、花などを持続的に栽培していきます。

- 「だんだん畑」の活用には、瑞穂町、事業者、専門家、町民が一体となって協働することが重要です。
- 農園の継続的な活用を促進するため、収穫と組み合わせたイベントとして「ハーブでお茶会」「焼き芋大会」「鍋大会」などを企画し、楽しみながら農園に関わる機会を提供します。

(4)農園計画(案) (31～32ページ参照)

だんだん畑の持続的な活用方法を考えるため、農園活用ワークショップを令和6年度に2回実施しました。ワークショップ参加者からの提案を基に、専門家の意見を反映し、農園計画(案)を作成しました。

(5)専門家からのコメント

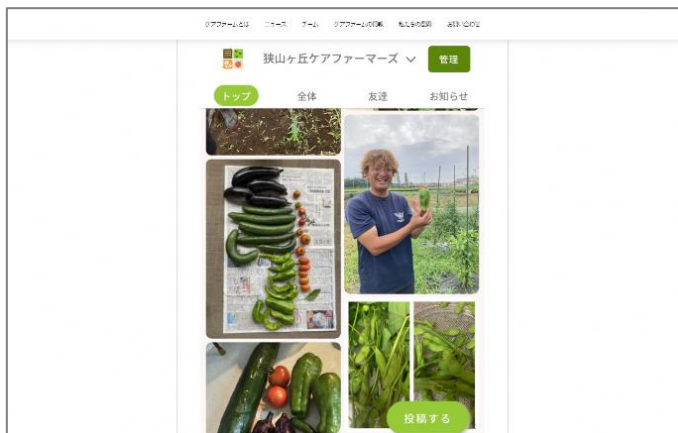
井上祐輔氏(東京NEO-FARMERS!、農園活用ワークショップ講師)

- 農園計画(案)の作成にあたり、農法にこだわりすぎず、育てやすく、住民の皆さんが楽しんで育てられる作物を選定しました。
- 撒種や収穫時期の都合から、ワークショップでいただいた希望にすべて添うことはできませんが、定植や収穫時期を考慮して植え付け区画を検討しました。
- 花を植えたいとの希望が複数ありましたが、観賞用植物の誤食により食中毒を引き起こす可能性があり、花の栽培にあたっては慎重な判断が必要です。

(6)農園でのICT活用事例

- 現在の農業DXにおいては、大規模農園におけるデータ収集や、ロボットによる補助など、作業の効率化が主目的となっています。
- 市民農園におけるICTの活用では、遠隔での操作や、セキュリティ面での活用(農園への入退室の管理)などの事例があります。

ア 参考事例「狭山ヶ丘ケアファーマーズ」



※出典: ケアファームジャパン～日本型ケアファームの農園～
<https://carefarm.jp/> (最終閲覧日: 2025年2月20日)

運営: 都市緑地株式会社 (Urban Greenery, Inc.)

特徴: 埼玉県所沢市の高齢者福祉施設に併設された農園。「日本型ケアファーム普及のための地域・多世代交流の環境整備モデル事業」として実証実験を行っています。農園の利用者限定のSNSアプリケーション「デジ畑」を独自開発。農園に来ている人の管理や、コミュニケーションツールとして活用しています。農作業の進捗や、収穫した野菜の料理の写真などを利用者間で共有するコミュニケーションツールとなっています。また、農業指導者に写真を送って質問するなど、専門家とのコミュニケーションにも活用しています。

イ 参考事例「LOCAL FARM」



※出典: LOCAL FARM | 誰でも気軽に野菜づくりを始められる
<https://local-farm.jp/> (最終閲覧日: 2025年2月20日)

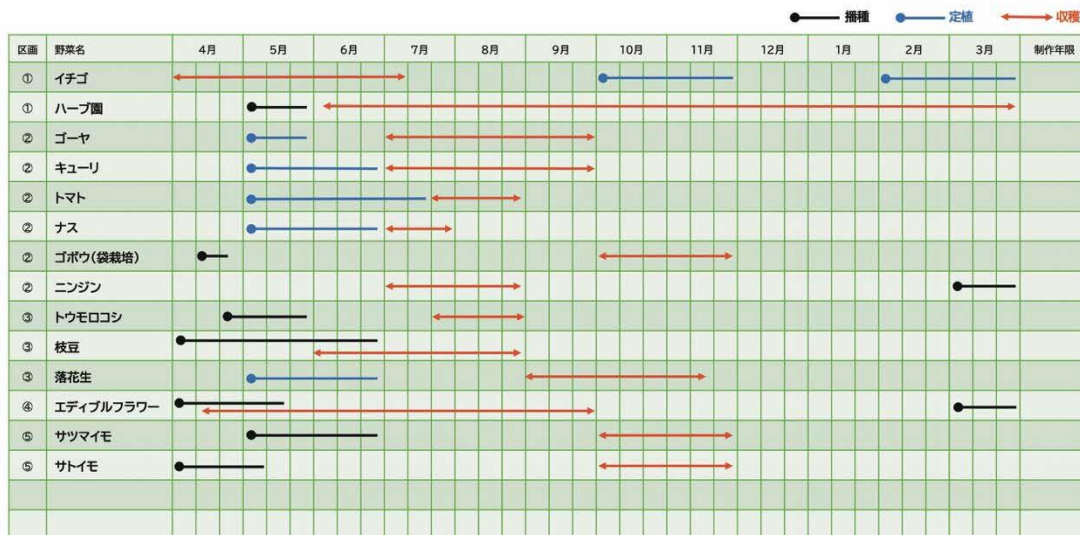
運営:株式会社ファクティブ

特徴:東京都中央区、神奈川県伊勢原市、神戸市中央区にて市民農園を運営。

「スマート・レンタル農園」をうたい、初心者でも手ぶらで農作業ができるようになっています。専用のLINEアプリで、野菜の作り方を学んだり、写真を送って病害虫診断ができます。

～ 農園計画(案) ～

だんだん畑の年間計画〈春作〉



想定収穫イベント



ハーブでお茶会



ビアガーデン

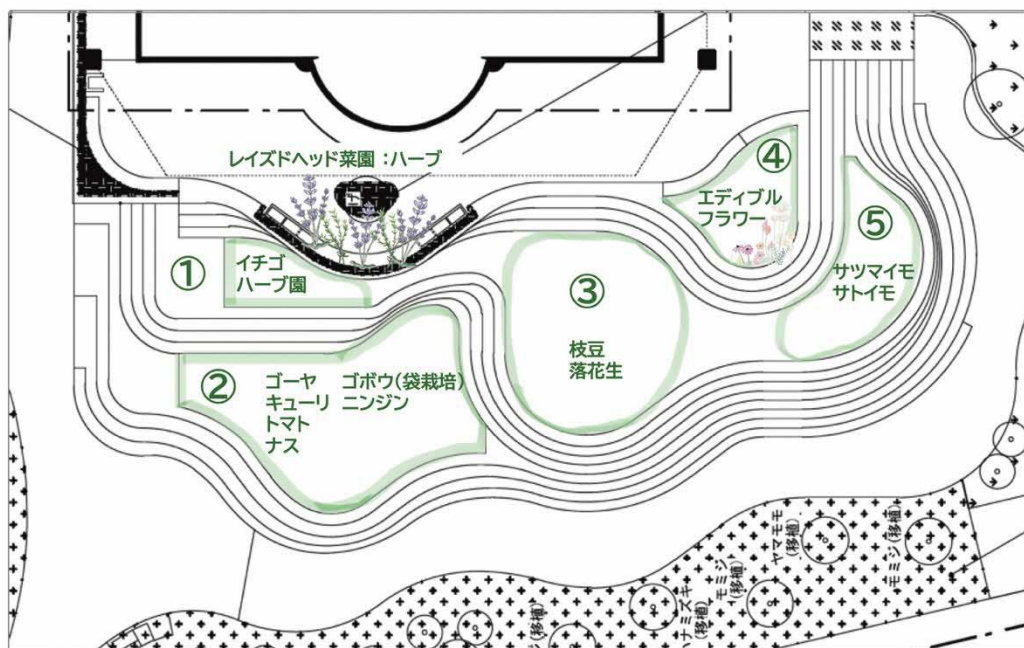


焼き芋

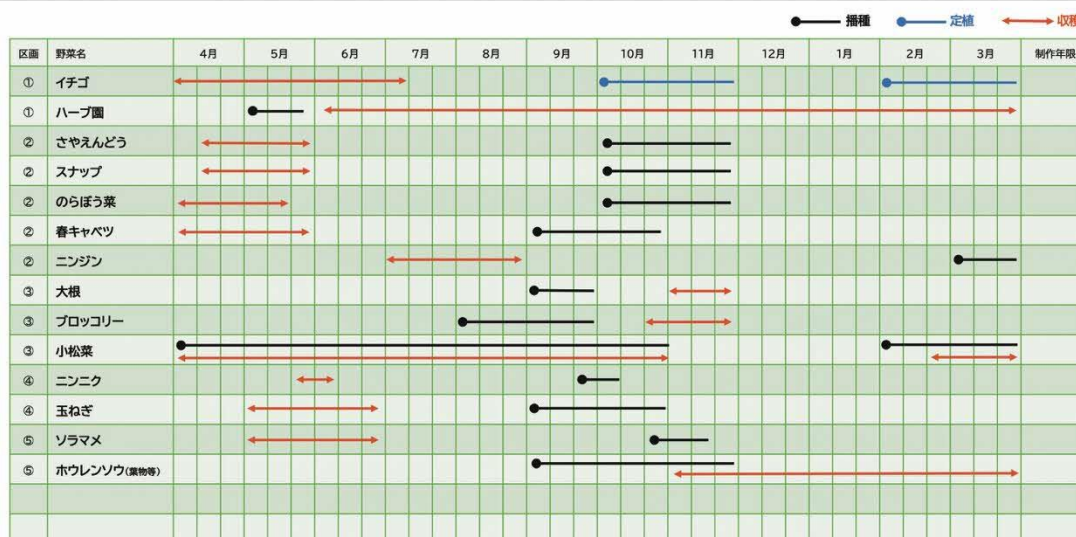


豚汁

だんだん畑の年間計画〈春作〉



だんだん畑の年間計画〈秋作〉



想定収穫イベント

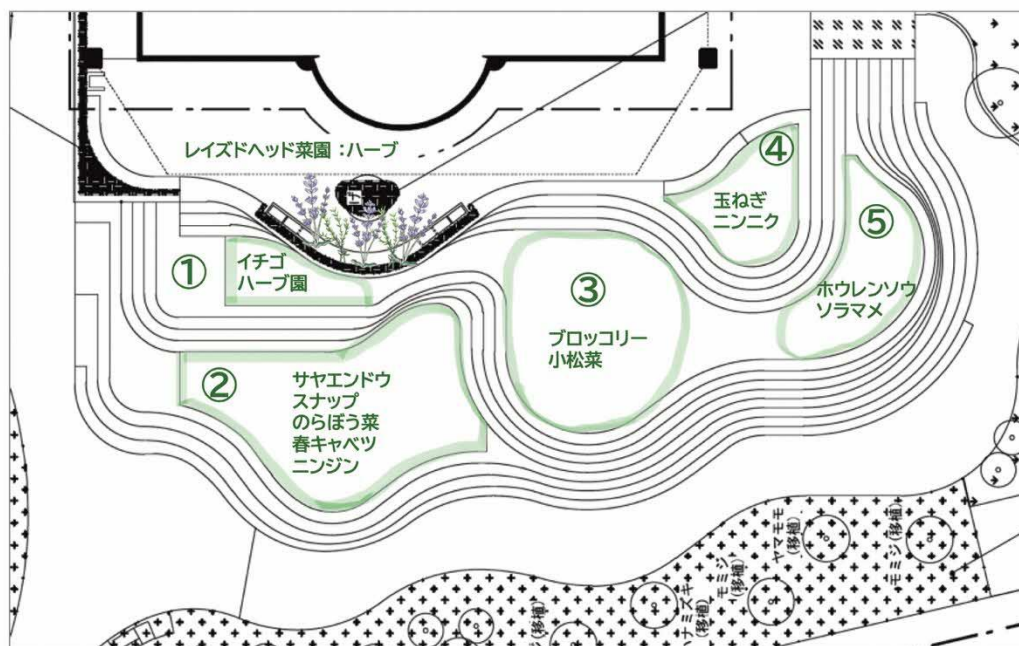


ハーブでお茶会



鍋

だんだん畑の年間計画〈秋作〉



6-3 住民との協働事業

(1)目的

高齢者、子ども、障がいのある方、そして多様な地域の皆さんが、日常的に「共に在る」ことができる場となるために、事業の企画や運営に、だれもが関わることができる、そのための仕組みやプラットフォームづくりの実施を目指します。

協働型社会の実践として、官・民といった二元論的な考えではなく、柔軟な運営を行っていくために、本事業においては、行政と指定管理者だけでなく、幅広い利用者や地域住民との協働は不可欠となります。

(2)基本方針

「ICT活用」「農園活用」を含む、事業全体の基盤となる住民協働事業を実施していきます。

- 事業の基本であり、瑞穂町における「協働型社会の推進」をリードするような取組を実施します。

(3)実施のイメージ

住民協働事業として、農園活用とICT活用を連携させた取組を展開します。「だんだん畑」のデータ(写真・動画・テキスト)を記録・アーカイブし、それを活用してSNS上で交流を図ることで、農園への愛着を深めるとともに、ICT・デジタルを自然に学ぶ機会を提供します。このような横断的な取組を通じて、多様な町民がつながり、協働の基盤を築いていきます。

6-4 評価について

(1)目的

施設の事業や活動が、施設全体のコンセプトや、高齢者と子どもを含む地域のニーズや期待にどの程度応えているかを理解し、それに基づいて改善を図ることを目指します。そのためには、評価のプロセスに幅広い関係者を含めることが重要です。これにより、多様な視点が反映されていきます。

(2)基本方針

多様な利害関係者による「参加型評価」を実施します。「参加型評価」とは、利害関係者が評価プロセスに積極的に関与することを特徴とします。これにより、さまざまな視点を取り入れ、より実用的で意味のある評価結果を得ることができます。

(3)実施のイメージ

従来の「指定管理者選定委員会による評価」に加え、本施設及び本施設を通じた活動に関わる多様なステークホルダー(瑞穂町、事業者、専門家、町民など)が参加する評価プロセスを導入します。各ステークホルダーが他のステークホルダーを評価するのではなく、参加者全員で意見を可視化し、事業の改善に生かす仕組みを構築します。

資 料 編

瑞穂町今昔写真ワークショップ
開催レポート

開催
概要

瑞穂町では高齢者福祉センター「寿楽」の改修工事に着手しています。改修後は、子どもから高齢者、子育て世代のだれもが利用できる施設にリニューアルします。本施設では、高齢者のデジタルデバйд対策や多世代交流がテーマの一つとなっており、今後この施設で行うプログラムや、多世代交流のあり方を検討するために、ICTを活用したワークショップを実施しました。瑞穂町の昔の写真を持ち寄り、同じ場所の現在を撮影する「今昔写真」を作成し、Facebookグループにアップし、みんなで共有しました。

日時 令和 6 年 2 月 17 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 4 時

対象 町内在住・在勤の方

場所 瑞穂町ふれあいセンター

参加人数 20 名

企画・運営 アカデミック・リソース・ガイド株式会社、面白法人カヤック

プログラム

プログラム	時間	
施設の説明	5分	全体
ワークショップの説明	10分	全体
持ち寄った写真を共有して作戦会議	15分	グループ
【撮影班】写真のスキャン・現在の写真を撮影 【Facebook班】Facebookをやってみよう	80分	グループ
休憩	5分	-
撮影した投稿をアップする	15分	グループ
全体で共有	15分	全体
次回ワークショップの説明	5分	全体

ワークショップ の様子

今回のワークショップでは、昔の瑞穂町の写真を持ち寄っていただき、昔の町の様子や、お祭りの様子など、懐かしい写真や今とは違う町の様子で、とても盛り上がっていました。古い写真の現在の様子を撮影しに行くと、昔のお店が移転していたり、周りの景色が変わっているため目的地を見つけられなかったりと、その場所を探すこともゲーム感覚で楽しむことができました。70代以上の方には、Facebookへの写真のアップにチャレンジしていただきました。今回初めてFacebookをやってみたという方も多く、Facebookで「いいね」をしたり、コメントをつけたりと、積極的に取り組んでいました。

撮影した現在の写真と昔の写真を並べてFacebookにアップし、撮影した写真をみんなで大画面を見ながら感想を語り合いました。昔と今の写真を並べることで、世代を超えて町の変化や、昔の思い出を語ることができました。



アンケートの感想※一部抜粋

- 楽しかったです。もっとたくさんの写真を見たいと思いました。
- 探して写真を撮るのが楽しかった。
- 貴重な写真を見ることができました。普段生活して見ている風景の今と昔が大分変化していることを発見できたのはとてもよかったと思います。
- はじめて Facebook を教えていただきました。
- Facebook の使い方がわかり良かった。

瑞穂町今昔写真



時計台



他6人

コメント1件 全員が既読

👍 いいね！

💬 コメントする

✉ 送信

茨山橋



他4人

全員が既読

👍 いいね！

💬 コメントする

✉ 送信





1-2 ICT活用ワークショップ2

瑞穂町 e-sports ワークショップ

開催レポート

開催 概要

瑞穂町では高齢者福祉センター「寿楽」の改修工事を実施しています。改修後は、子どもから高齢者、子育て世代のだれもが利用できる多世代交流センターにリニューアルします。本施設では、高齢者のデジタルデバインド対策や多世代交流がテーマの一つとなっており、今後この施設で行うプログラムの企画や、多世代交流のあり方を検討するために、e-sports(ゲーム)のワークショップを実施しました。子どもと大人がチームを組んで、「太鼓の達人 ドンダフルフェスティバル」をプレイし、チーム対抗戦で瑞穂町No.1決定戦を実施しました。

日時 令和6年7月6日(土) 午後1時30分～午後4時

対象 町内在住・在勤の方

場所 瑞穂町ふれあいセンター

参加人数【チーム数】 35名【12チーム】(子ども:13名、高齢者:11名、保護者:11名)

企画・運営 アカデミック・リソース・ガイド株式会社、面白法人カヤック

プログラム

オリエンテーション (15分)

練習タイム (30分)

トーナメント戦 (90分)

表彰式 (15分)

ワークショップ
の様子

瑞穂町ではe-sportsの取組ははじめての試みでしたが、5歳から80代まで、幅広い年齢の方に参加いただき、みんなで一体となって楽しむことができました。高齢者の方にとってははじめてゲームをするという方も多く、最初は操作やルールが難しい部分もありましたが、徐々に上達し、チームメイトの子どもと一緒にゲームを楽しんでいました。

ニンテンドースwitchによる「太鼓の達人 ドンダフルフェスティバル」は、体を使って遊ぶゲームのため、音楽に合わせて歌っている子どもや、一緒に手をたたいている人がいたり、会場全体で盛り上がることができました。リニューアルする多世代交流センターでも、このような多世代が自然と一緒に楽しんでいる雰囲気が生まれるようなプログラムを今後も検討していきたいと思います。



太鼓の達人™ドンダフルフェスティバル & ©Bandai Namco Entertainment Inc.

アンケートの感想※一部抜粋

- 色んな人と交流したりするのがたのしかった
- とても楽しかったです！！
- 盛り上がりました
- また参加してみたい
- はじめてのゲームでしたが楽しかったです
- 全世代で楽しめた

1-3 農園プレイベント

さつまいも収穫体験と花の苗づくり体験

開催レポート

開催概要

瑞穂町では高齢者福祉センター「寿楽」の改修工事を行います。改修後は子どもから高齢者までだれもが利用できる多世代交流施設へとリニューアルします。敷地内に農園をつくり、多世代が交流できる地域の居場所として整備します。

今回は、将来的な施設の運用を検討するためのプレイベントとして、近隣の畑を借用して旬のさつまいもの収穫体験と、チューリップの球根の鉢植え体験を実施しました。ポットに植えたチューリップは、春先に高齢者施設に配ります。

日時 令和5年11月19日(日) 午前10時～午前11時

対象 町内在住・在勤で小学生以下のお子さんと保護者

場所 フラワープラム(長岡長谷部 83-1)

参加人数 31名(9組)

講師 佐藤 雄介 氏(西多摩ファームプロジェクト)

プログラム

概要説明

さつまいも掘り

チューリップの
苗づくり

閉会



イベント の様子

講師の佐藤さんは、農業活動を通して高齢者や子どもたちがふれあい共に生きがい(楽しみ)を探求していく地域共生型プロジェクトを行っています。今回のイベントでも、「みんな(子どもたち)が掘り起こしたさつまいもをさらに美味しく食べるまでの準備を、高齢者の方々にもご協力してもらっています。それが高齢の方の生きがいや活躍の場所にもなっています。」「また準備してくれたチューリップは、高齢者施設できれいに咲かせてもらうために、春先までに各施設にお届けして、施設の軒先やお庭に植えてもらっています。その植えてもらったお花を見にお散歩をすることで歩く機会が増え、より元気に過ごすことができます。」、といった説明を聞きながら農作業を行いました。さつまいも掘りでは、大きなさつまいもや、たくさんの根が連なったさつまいもを、子どもたちが夢中になって掘っていました。収穫したさつまいもは、各家庭に持ち帰り、どんな料理を作りたいか等、家族で話している様子が伺えました。1時間という短い時間ながらも、あっという間にたくさんのかご一杯のさつまいもが収穫でき、あわせてチューリップの球根を植えたポットもたくさんできました。畑という場所や、農作物を通して、地域の人が間接的に関わることができ、今後の施設運営の検討においても参考となるヒントがありました。



アンケートの感想※一部抜粋

- ・掘るのが大変だったが楽しかった。
- ・地域一体になっていて、良い取り組みだと思った。
- ・大人も子供も一緒に参加できてすごく楽しかった。
- ・とても良い体験になった。また参加してみたいと思う。
- ・さつまいも掘りが楽しかった。
- ・貴重な体験をさせていただいた。
- ・なかなかできない収穫体験ができてとても良かった。
- ・大人も子供もとても楽しめた。

1-4 第1回農園活用ワークショップ

瑞穂町 第1回農園活用ワークショップ

開催レポート

開催 概要

みんなで「だんだん畑」の年間計画をつくろう！

リニューアルする瑞穂町多世代交流センターMIZCUL(ミズカル)には、みんなで育てる「だんだん畑」が整備されます。本ワークショップは、「農園を活用した多世代交流の実践」「農園の利活用方法の検討」「農園を運用する持続的な組織づくり」を目的とし、農業について学びながら、「だんだん畑」の持続的な利活用につなげていくことを目指します。

日時 令和6年11月23日(土・祝) 午後1時30分～午後3時30分

対象 町内在住・在勤・在学の方

場所 瑞穂町役場1階ホール

参加人数 19名【3グループ】(他、傍聴者3名)

企画・運営 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 / 井上 祐輔 氏(ゲスト講師)

プログラム

事業の共有・オリエンテーション (10分)



農業を学ぶショートレクチャー (10分)



だんだん畑の計画をつくる(前半)企画会議 (30分)



だんだん畑の計画をつくる(後半)計画書づくり (15分)



全体で共有・あいさつ (20分)

ワーク ショップ の様子

今回の農園活用ワークショップ〈第1回〉では、瑞穂町の農業やおいしい野菜の育て方について学びながら、「だんだん畑」の年間計画をみんなで考えました。

前半では、講師による農作業や畑作り、年間計画の立て方に関するレクチャーを受け、基礎知識を深めました。後半では、参加者が3つのグループに分かれ、何を育てるか、どのように畑を活用するかについて意見を出し合い、話し合いを重ねながら、それぞれのグループごとの年間計画を作成しました。

このワークショップを通じて、参加者は瑞穂町の農業の重要性を改めて認識するとともに、農業や食に関する活動が世代を超えた交流のきっかけになることを実感しました。農業という身近なテーマを通じて、多世代の地域住民が共に考え、対話する貴重な時間となりました。



だんだん畑の年間計画〈春作〉

グループ名 B

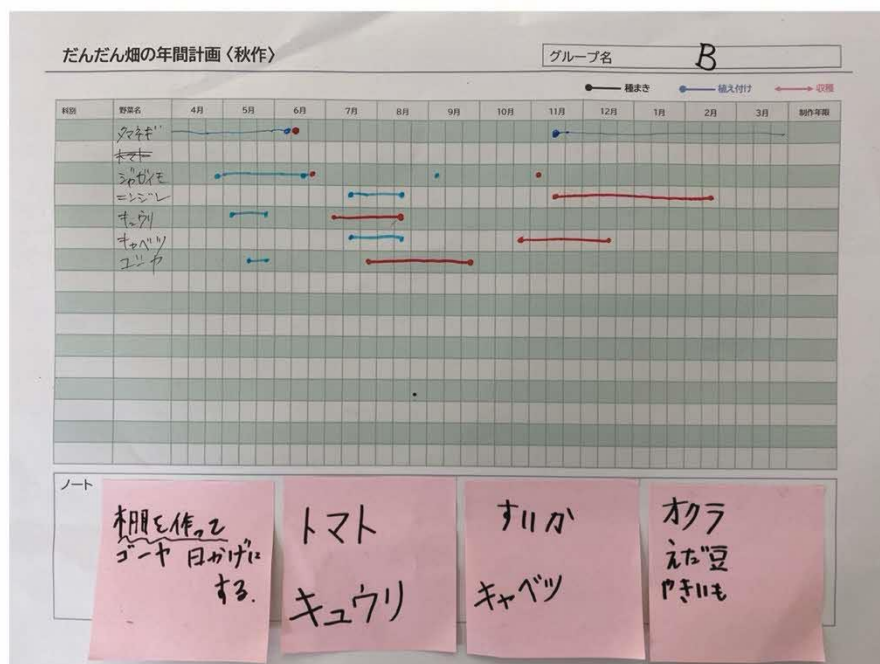
● 種まき ● 植え付け → 収穫

作物	野菜名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	制作年
	バジル					●	→							
	トウモロコシ					●	→							
	トマト		●	→										
	シシトウ	●	→											
	ミョー		●	→										
	ナス		●	→										
	キュウリ		●	→										
	アスパラガス		●	→										
	ニンジン		●	→										
	オクラ		●	→										
	エビ豆		●	→										
	キャベツ		●	→										
	カマ		●	→										
	ピーマン		●	→										
	アスパラ								●	→				
	アスパラ								●	→				

ノート

- ラボラ
- ズク
- ダイレ

バジル
りんご
バジル
ミント



[illegible]

- ・ 子どもの自由な発想が、どんどん実現しそうな感じがした。とても楽しい時間を過ごすことができました！
- ・ 子ども目線での意見を聞けて楽しかったです。
- ・ いろいろな可能性を考えるよいきっかけになりました。ありがとうございます。
- ・ 多世代が集まってよかった。前向きなお話ができた。
- ・ ワークショップ自体が多世代交流の場となり有意義でした。
- ・ 講師の方のお話がおもしろかった。アドバイザーの存在は大切です。
- ・ 学校や高齢者施設の方々も参加できるとよいですね。
- ・ 子ども、大人、障がいのあるなし関係なく集まれる場所になってほしいです。
- ・ 農芸高校の参画があるとよい。
- ・ 持続可能なものづくりを目指し、収穫物を子ども食堂へ寄付する、産業まつりで販売するなどの取り組みも考えられたらよいと思いました。

1-5 第2回農園活用ワークショップ

瑞穂町 第2回農園活用ワークショップ

開催レポート

開催 概要

瑞穂町の野菜を使ってピザをつくろう！

リニューアルする瑞穂町多世代交流センター「MIZCUL(ミズカル)」には、町のみinnで育てる「だんだん畑」が整備されます。本ワークショップは、瑞穂町の野菜でピザをつくり、食事を楽しみながら、農園のこれからについて語り合います。

日時 令和7年2月22日(土) 午後1時30分～午後3時30分

対象 町内在住・在勤・在学の方

場所 長岡コミュニティセンター 調理室

参加人数 15名【4グループ】(他、傍聴者1名)

企画・運営 アカデミック・リソース・ガイド株式会社 / 井上 祐輔 氏(ゲスト講師)

プログラム

事業の共有・オリエンテーション (10分)

だんだん畑の年間計画共有 (20分)

質疑応答 (15分)

ピザづくり (40分)

食事・対話・かたづけ (30分)

おわりのあいさつ (5分)

ワーク
ショップ
の様子

今回の農園活用ワークショップ(第2回)では、「だんだん畑」の年間計画案を共有し、ピザづくりに挑戦しました。

前半では、まず講師から農園計画案に関する説明を受けました。この農園計画案は、第1回のワークショップで出た意見をもとに「だんだん畑」で育てられそうな作物を記載したもので、季節ごとに収穫イベントも実施できるよう選定しました。参加者からは、植え付けや収穫にどのように関わることができるのかや、水やり等の日々の管理方法について、具体的な質問が飛び交いました。後半では、参加者が4つのグループに分かれ、瑞穂町の野菜を材料に、みんなで意見を出し合いながらピザをつくりました。みんなでつくったピザを食べながら、何を育てるか、どのように畑を活用するか話し合いました。

このワークショップを通じて、参加者は瑞穂町の野菜の特徴やおいしさを改めて認識し、共に食材を選び、調理方法を考える過程を通じて、「MIZCUL(ミズカル)」で栽培する野菜や収穫物の活用方法について多世代の住民が対話し、具体的に考える貴重な時間となりました。食と農(畑)は、人の暮らしの基本であり、この営みを通じて世代を超えた交流や活動が生まれることを、ワークショップを通じて実感しました。「MIZCUL(ミズカル)」の運営でも、食と農(畑)の可能性を最大限に生かしていきます。





アンケートの感想(抜粋)

- ピザがとてもおいしい！たのしかったからきてよかった。またさんかしたい。
- 自分のオリジナルのピザを作れてよかった。
- 瑞穂町の野菜のおしを知りました。
- 瑞穂産の野菜ということで期待がありました。今、キャベツも高いのですが、ベースにちぎって使うと、歯ごたえがあっておいしくいただきました。
- 皆さんたちとグループ作業しながらだと話やすくてよいと思いました。

資料編 2 事業計画

令和6年8月に行われた指定管理者選定時に提出された事業計画書の概要版です。

ミズカル
瑞穂町多世代交流センター Mizcul
指定管理者 事業計画書（概要版）

グループ名：ミズカル・パートナーズ

1 運営方針

長年地域に愛された高齢者福祉センター寿楽は、子どもから高齢者まで誰もが利用できる多世代交流センター「ミズカル（mizcul）」に生まれ変わります。ミズカルは「新しい公共空間」という着想と、町民の皆様からの意見（夢）を集め、生まれた施設であると理解しています。

地域住民や利用者の皆様からの投票で選ばれた愛称が、町内町外を問わず広く認知され、地域に親しまれ愛される施設となるよう、また地域コミュニティの活動拠点としての役割を果たしていくため、当グループの名称を「ミズカル・パートナーズ（理解者・協力者）」とさせていただきました。

多世代交流の拠点施設としての特徴的な機能を十分に活用し、施設単体の管理ではなく、常に地域社会との関わり方に視点を置きながら事業に取り組んでまいります。多世代交流センターミズカルが、地域の皆様の「居場所」として“イゴコチのよい環境づくり”を、“次世代にもつなげて”いくことが大切であると考えております。

運営理念：多世代交流センター“ミズカル”の運営について

瑞穂町の将来都市像「すみたいまち つながるまち あたらしいまち」、そして施設コンセプトである「地域を耕す、みんなの居場所」に込められた想いを踏まえ、当グループは以下の基本理念を掲げて施設を運営し、パートナー（理解者・協力者）として地域に関わってまいります。

【運営理念】地域まちづくりのパートナー（理解者・協力者）として、
“イゴコチのよい環境をつくり、次世代にもつなげていく”

運営方針：多世代交流センター

人と人との“つながり”を広げていくことにより、毎日の生活が楽しく、豊かに、活気あるものとなることで、施設（地域）活性化につなげます。施設と地域が一体感のある運営を目指します。

- 【運営方針】
- 方針1：新しい人の流れ、出会い・発見・体験につながる事業
 - 方針2：あらゆる立場の人を意識した居場所づくり
 - 方針3：安心安全な施設、地域連携による施設運用・防災対策
 - 方針4：地域活性化への取り組み

運営方針：学童保育クラブ

私たちは、子どもたちが毎日を豊かに過ごせる保育・育成を通じて、明日をたくましく生きる力を育みます。そして、子どもの健やかな成長を願うご家庭や地域社会とのコミュニケーションを大切に、より良い今日をサポートします。

- 【運営方針】
- 方針1：遊び・生活を通して児童の発達支援を行う
 - 方針2：安全安心な居場所の提供
 - 方針3：保護者の子育て支援をする
 - 方針4：地域の子育て拠点として地域との連携を強化する

地域の中の子どもの居場所（生活の場）、遊びの拠点となることを目指し、その中で子どもと長期的・継続的に関わりながら様子を観察し、必要に応じて家庭や地域の環境整備を図ることで、子どもの安定した日常生活を支援します。学童保育クラブは、“地域の子育て支援ネットワークの拠点である”との自覚を持ち、子どもの育成に関する理解と協力が深まるよう地域社会に働きかけます。

多世代交流センター運営事業への想い（シンコースポーツ㈱、街活性室㈱）

「私たちは、ひとの健やかな暮らしを応援する公共施設マネジメント会社です。」

シンコースポーツ㈱は、東京都中央区に本社を置く企業であり、指定管理者事業では全国でもトップクラスの管理実績を誇ります。公共施設の管理運営におけるリーディングカンパニーであり、地域と一緒に新たな施設価値を見いだしながら、全体統括および運営全般を担います。

多世代交流センターエリアの共同運営体制をとる街活性室㈱は、埼玉県を拠点にコミュニティセンター、市民活動施設、児童館、子育て支援施設、男女共同参画施設など、地域の課題解決と活性化のためにつなぎ、構築し、活用することに尽力しています。

2社ともに豊富な指定管理者の事業経験を有しています。まちづくりの仕掛けづくりを地域の皆様と協力しながら進めていくことで、活力ある生活習慣を生み出す事業を展開していきます。

- ・新しい出会いによる地域コミュニティの再生（きっかけづくり）
- ・施設特性の活用（ICT環境、だんだん畑、厨房・パブリックスペース等）
- ・ミズカル事業の参加促進（イベント開催、コミュニティ大学の開校）

放課後児童健全育成事業への想い（㈱明日葉）

「保護者が安心して託せる、子どもが笑顔になれる居場所の創造」

放課後児童健全育成事業含む全ての子育て支援事業は、大人の一方的な視点からではなく、子どもの利益が最大限に尊重されるよう配慮し、子どもの幸せを第一に考えた運営を行うことが大切であると考えます。

私たちの考える学童保育クラブは、働く保護者にとっての使い勝手だけではなく、子どもが喜んで笑顔で通う姿があってこそ、保護者も安心して我が子を託すことができるものと考えています。私たち自身が、我が子を安心して託せて、子どもたちが毎日学童保育クラブに来たくなる理想の学童保育クラブを創りたい、そのような思いで私たちは本事業に携わっております。

㈱明日葉は、すべてのお客様・働く仲間・社会全体に「豊かな暮らし」を提供し続けることを使命とし、今後も事業活動を通じて社会的な課題の解決に貢献してまいります。

多目的でも一体感ある運営体制を構築

学童保育クラブの運営を共同事業体の構成団体（㈱明日葉）が担当することで、運営上の要件を満たし、責任区分を明確にしながらも、多世代交流センターミズカルとして“一体感のある運営体制”を構築します。

施設利用にあたり、「禁止事項」や「利用制限（ルール）」で縛られた施設では、多世代間・地域との交流は生まれるはずもなく、既成の概念にとらわれない視野と視点が必要となります。地域課題や施設課題（利用の期待）を洗い出し、子どもたちが成長した時に誇れるような街にしていきたい、その支援を行ってまいります。

2 施設管理

多世代交流センター（多世代交流機能、高齢者福祉センター機能）については、シンコースポーツ㈱より総括責任者（センター長）、街活性室㈱より副責任者を配置し、共同運営体制を構築します。また、学童保育クラブ機能については、放課後児童クラブや児童福祉施設の運営実績が豊富な㈱明日葉

ミズカル
瑞穂町多世代交流センター Mizcul
指定管理者 事業計画書（概要版）

グループ名：ミズカル・パートナーズ

が責任者及び支援員、補助員を配置します。

総括責任者を柱にして、各専門スタッフの配置とマルチジョブによる業務調整を推進する体制を計画しています。構成各社から複数のサポート体制、近隣管理施設からの業務支援や本部のバックアップ体制より、管理情報を共有しながら事業を進めてまいります。地域経済と地元雇用に貢献するため、多世代交流センターのスタッフ（責任者及び有資格者配置以外）は町内在住者を優先に雇用します。設備保守点検等は、専門事業者との連携を図ります。

3-① 事業計画（地域連携事業）

グループ構成3社の運営経験を活かした事業計画

当グループの構成各社は、指定管理者として公共施設の運営で培った豊富な事業経験があります。多世代交流センターミズカルの多目的な施設機能（だんだん畑、厨房スペース、ICT環境）を活かした事業を展開し、地域の力を集めて“まちづくり”を推進してまいります。特徴ある施設機能を有効に活かしながら、新たなサークルや活動者（プレイヤー）を発掘し、様々な分野からの継承者【次世代の担い手】が生まれるよう働きかけていきます。

地元の農業協同組合との連携

だんだん畑の運用に関しては、地元の農業協同組合との連携を計画しています。当グループの事業計画について、農業協同組合には理解をいただき、作付計画や栽培技術の専門的なアドバイスや指導をお願いします。また、農協との連携により、地域農業者との結びつきを得ることが期待されるため、種苗の仕入れや農作業の協力などの関係を築きたいと考えております。

都立瑞穂農芸高校、町立学校、幼稚園等との連携

だんだん畑の収穫作物の調理や厨房スペース（オープンキッチン）の活用の一つとして、都立瑞穂農芸高校との連携を計画しています。都立高校でありながらも“町立”と思って地域と連携をする思想があり、地域連携に積極的な学校であると認識しています。3年生の研究・学習発表会には「食育活動」をテーマとするものがあると伺っております。是非、私たちが開催する事業にも連携をしていただき、レポートなどの紙面だけでなく、“食”という実体験の場で成果発表（レシピ発表・試食会）をしていただきたいと考えております。

福祉施設（障がい者・高齢者）との協働

近隣福祉施設の活動の理解と地域とのつながりを深めるため、屋外清掃や花壇整備作業に参画していただきたいと考えています。障がい者の方にも無理のない活動範囲を事前に調整し、達成感が感じられるよう工程を検討し、体に負担のない作業をお願いします。

地元企業・地域団体、関係機関との連携

地元企業を対象としてCSR／SDGs活動の場を提供します。地域連携イベント開催時の物資提供や協賛を依頼し、地域の活性化と地域振興への貢献を働きかけます。また、当グループは地域との人的交流を深める機会を大切にし、地域行事にも積極的に参加いたします。

地域を守る仲間としての協働（ボランティアの募集）

ミズカル
瑞穂町多世代交流センター Mizcul
指定管理者 事業計画書（概要版）

グループ名：ミズカル・パートナーズ

緑の環境づくりや地域の環境維持活動、防犯・防災対策の取り組みのため、地域の皆様からボランティアを募集します。活動への参画により“郷土愛”を実感として捉えることにもつながります。

ミズカルフェス（仮称）、テーマ別イベント、地域連携による取り組み

多世代間の交流促進のため、施設イベントの開催を計画しています。日々の活動にも目標が生まれることで、町民（利用者）のモチベーション（いきがい）の向上につながります。ミズカルを拠点とした地域の賑わいづくりの効果があると期待しています。

主なイベント事業例（計画）

- 「みずほコミュニティ大学（文化祭）」「ミズカルフェス（発表会）」
- 「防災フェス（炊き出し訓練等）・防災ラン・ウォーク」「eスポーツ大会」
- 「ニュースポーツ体験（ボッチャ・モルック等）」「地元食材の試食」「マルシェ・朝市」

3-② 事業計画（講座・施設機能の活用事業）

みずほコミュニティ大学（仮称）の開講

ミズカルの新たな施設機能として「創作ルーム」「ダンススタジオ」「厨房・オープンキッチン」「音楽スタジオ」が追加され、多世代交流／高齢者福祉エリアには、充実した会議室と多目的室が整備されています。当グループは「多世代間の交流」「地域コミュニティの活性化」「教養向上」「健康増進」などにつながる事業として、「みずほコミュニティ大学（仮称）」開校します。講座への参加を通じて、ミズカルから“つながり”を生み出し、“居場所”をつくるきっかけとなる事業となります。

主な講座事業例（計画）

- 「地域学習講座（瑞穂学）」地域の魅力を再発見・発信するゼミ形式
- 「教養・スキルアップ講座」趣味教養・ICT活用支援講座・子育て支援など
- 「健康増進（健康づくり）講座」子どもからシニアまで健康増進を目的とした講座
- 「創業支援講座」創業支援を目的として、町や商工会等と連携した人材育成講座
- 「NPO支援・担い手育成講座」地域の担い手の育成講座

厨房スペース（シェアキッチン）の活用

厨房スペースを“シェアキッチン”として活用し、人々が集い、つながり、地域が持つ知識や経験、時間を共有して、地域を活性させることが期待されています。当グループは、「開業を目指す人」や「瑞穂町で何かやりたい人」の気持ちを応援、後押しできるような場所として、シェアキッチンの活用を促進してまいります。

だんだん畑の活用

当グループは、本施設のだんだん畑を「多世代交流のコミュニケーションの場」として考え、農作業の体験を通じ、子どもから高齢者までの幅広い世代が畑づくりに関われる農作物の栽培を行っています。だんだん畑での体験活動を通じて、共感力や想像力の高まりを期待しつつ、多世代交流の促進と地域コミュニティの活性化、先の世代へつながる持続可能な地域づくりの形成を図っていきます。

農の専門技術については、地元農業協働組合との連携により、作付計画及び農作物の栽培にあたっての指導（アドバイス）、畑の土壌検査や構造上の特性などについても専門的見地からの意見をいただく予定です。収穫した農作物は、オープンキッチンや厨房スペースにて、多世代交流を目的とした事

グループ名：ミズカル・パートナーズ

業（食育・レシピ開発等）に活用します。「収穫」「調理」「消費（食育）」を通じて“つながる交流”の機会と“地域のにぎわい”の場づくりを創出します。

ICT活用（利用予約・広報計画・SNSなど）

瑞穂町として、文化施設では初めて公共施設予約システムが導入されます。利用予約について、パソコン操作が不安な方でも安心していただけるような受付対応を心がけます。「パソコンが苦手だけど克服したい」「自分で予約をしたい」という方には、事務室に施設予約用タブレット端末をご用意しますので、お問い合わせください。

より多くの方に情報が行き届くよう「施設内の情報掲示板」「紙媒体の情報紙」「ホームページ」「X（旧 Twitter）」「LINE」「Instagram」を活用します。イベントの開催風景、講座の風景、だんだん畑に植え付けした野菜の生育の様子や農作業の活動状況など、楽しさ・賑わい・仲間を集めの取り組みを紹介することで、ミズカルの認知度向上、利用促進につなげていきます。

3-③ 事業計画（学童保育クラブ：放課後児童健全育成事業）

あいさつと身だしなみ

子どもたちが学校の授業を終えて、学童保育クラブに登所した際には「おかえり」と声掛けをして迎えます。それは学童保育クラブが単なる遊び場・預かり場ではなく「放課後を過ごす生活の場」「第二の家庭」として、子どもたちにとって“ホッ”とできる居場所でありたいとの思いを込めています。

児童育成を担う職員であるという自覚と責務を認識し、子どもたちの身近な手本になるように、また学校関係者・保護者・近隣住民等多くの方との関わりの際に好感をもっていただけるように、日頃から服装や身だしなみを整えて業務に取り組んでいます。

遊び・児童間の交流、生活指導・自主学習、間食の提供について

遊びは生活の中の重要な要素です。児童は遊びによって肉体的・精神的バランスを保ち、活力や体力を養い、情緒を育て、社会的能力を身に付けていきます。異年齢で交流活動するプログラムを意図的に設けます。学年に相応しい役割をそれぞれに与えることにより、児童の自治意識を育みます。高学年児童にも魅力ある場所となるように、高学年向けプログラムも取り入れます。

学童保育クラブの環境は、児童の育つ力を支援する重要な要因であると考えています。児童一人ひとりに寄り添った支援を行います。勉強するためのスペースを確保し、邪魔されずに勉強できる環境を整えます。平日及び土曜日は来室後、「学習・本読みタイム」を設け、学習習慣と生活リズムを身につかせます。勉強するためのスペースを常時確保し、集中して勉強できる環境を整えます。

子どもにとっておやつは、単に空腹を満たす以上の大切なものです。子どもたちがくつろいで、友だちと一緒に食べられるように配慮します。みんなで「いただきます」「ごちそうさま」と挨拶して、おやつタイムを楽しみながら、心地よい食のマナー（手洗い、セッティング・片付け、ゴミの分別等）を身につけます。メニュー・バランス・量の工夫、衛生管理・食物アレルギーにも配慮します。

放課後児童健全育成事業（活動プログラム、保護者との関わり、特別な配慮が必要な児童）

ミ ズ カ ル
瑞穂町多世代交流センター Mizcul
指定管理者 事業計画書（概要版）

グループ名：ミズカル・パートナーズ

活動プログラムとは、日々の活動そのものです。大人が用意したプログラムに子どもが参加するのではなく、遊びの中から新しい計画が生まれ、実施し、振り返り、改善されるという一連のサイクルに子ども自らも加わることができるように支援員はサポートします。スポーツや運動を行う上での基礎となる運動神経の発達に主眼を置き、基本的な動きを身につけることで運動神経が発達し、鉄棒やマット運動、跳び箱など、「できた」ときの達成感や喜びを感じ、運動が好きになり、自主的にプログラムに参加できるようになることを目指しています。子どもたちの「DEKITA（できた）」を大切に、楽しく笑顔で参加できるプログラムを展開していきます。

事業運営者と保護者は「共に児童を育成するパートナー」として連携をとることが大切だと考えます。児童の様子を丁寧にお伝えし、課題や喜びを共有し、信頼関係を構築していきます。情報共有は状況に合わせて適切な方法で行います。電話、連絡帳、おたより、連絡システム（コドモン）などで積極的な情報発信・交換を行います。

障がいの有無に関わらず全ての子どもたちに遊びの場・保育の場が保障されることは当然であり、同年代の子ども達と一緒に過ごす経験は成長に必須のものと考えます。子どもの障がい・発達・生活に目を向け、生活や遊びを通して他児との関わりを支援する保育・育成に取り組みます。子どもが共に遊び過ごすことで、児童の成長に資する場を創造したいと考えております。

職員には「子どもの虐待防止マニュアル」を活用した研修を行います。日々の様子で少しでも気になる場合には、法人本部の専門家及び所管課・学校と協議し、必要に応じて関係機関に連絡します。経過観察を行い、相互に協力して早期対応に努めてまいります。

4 利用者サービスの向上策

情報発信の取り組み

当グループは、情報発信業務を瑞穂町全体のプロモーション活動として捉え、WEBや紙面、映像を通じて本施設の取組みを計画的に発信し、情報の周知と利用促進に努めます。

施設の公式ホームページを開設します。ポータルサイトとして情報を一元的に掲載することで地域情報を集約したプラットフォームとして機能させ、利用者の利便性の向上を図ります。瑞穂町内で新たに活動を始めたい町民と町内で活動する団体、指導スキルを磨きたい講師希望者と地域振興について学びたい学生等、人や活動、場所等、参加者の希望に応じてつなぎ合わせます。人・団体・事業をつなぎ、活動の場と交流の輪を拡充していきます。

施設予約は公共施設予約システムの導入により利便性が向上されます。当グループが展開する市民大学講座（みずほコミュニティ大学・仮称）においても簡単に申し込みができるよう「講座予約システム」の導入を計画しています。

ミズカルからの利用案内情報や地域団体によるコミュニティ活動の情報発信を目的とした紙媒体の情報紙「MIZUHO - NEWS（仮称）」を発行します。WEB上でもアーカイブ公開し、町内公共施設や協力店舗に配架して、より多くの方々へ情報が届くように努めます。地域や施設の特徴をとらえ、より地域の人に親しみやすく、手に取りたくなる工夫をした情報誌の制作に取り組みます。

送迎サービス（無料）について

ミズカルは最寄りの箱根ヶ崎駅から約2km離れた場所あり、近くのパス停からも700mという距離に加え、長い坂道が続く場所にあります。また、初めて来訪する方には「施設の場所が分かりづらい」と言えるかもしれません。

ミズカル
瑞穂町多世代交流センター Mizcul
指定管理者 事業計画書（概要版）

グループ名：ミズカル・パートナーズ

当グループのご提案により、ミズカルと箱根ヶ崎駅間を運行する送迎サービス（無料）の導入を計画しています。（※運行本数、運行コース、時間帯等については、現在協議・調整中です。）

物販スペースの設置

物販スペースを整備し、商品販売やレンタル品、野菜などの地域特産品の提供を計画しています。ダンススタジオでの活動、健康増進講座、だんだん畑での農作業に参加される方にとっては、非常に汗をかき衣類の摩耗も大きくなると考えています。タオル・シューズ・ウェア、冷感タオル、塩飴、経口補水液、栄養補給・体力向上・疲労回復効果のある食品やサプリメントについても販売品やレンタル品を用意し、手ぶらでも楽しめる環境を整えていきます。

瑞穂町では「障害者就労施設等からの物品等の調達方針」を定め、障がいのある方の就労と自立促進のため、物品購入や委託業務について、障害者就労施設等からの調達を推進しています。当グループにおいても、障がい者の就労支援を目的とする授産品（食品類、生活雑貨等）の販売について連携を図り、地域の福祉活動を支援していきます。

自動販売機は、飲料を主として、多様化する嗜好やニーズにも配慮し、軽食・お菓子・アイスなどのラインナップからの商材を選択し、設置をします。災害時に飲用水として活用することが出来る「災害救援ベンダー」、脱炭素の取り組みに役立てる「カーボンオフセット自動販売機」などから機種を選定し、社会貢献活動の推進にも取り組んでまいります。

用語解説

ICT(アイシーティー)

Information & Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略称。情報や通信に関する技術の総称。

アナログ

情報を連続的な量として扱うこと、情報処理方式。またデジタルと対比して、コンピュータなどのデジタル機器を使わないもの。例えば、針の時計、フィルム写真／フィルムカメラ、レコード盤／レコードプレイヤーなど。

SNS(エスエヌエス)

Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の略称。同じWebサイトに登録した利用者同士が交流できるWeb上の会員制サービス。

江戸東京野菜プロジェクト

都立瑞穂農芸高校の女子生徒を中心とした取組。先生と生徒たちが江戸東京野菜を育てながら、瑞穂町の活性化につながる活動を行っている。

学童保育クラブ

小学校の就学児であって、その保護者が労働などにより昼間家庭にいない場合に、授業の終了後に児童厚生施設などの施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的にしています。

花き

観賞用の花

QOL(キューオーエル)

Quality of Life(クオリティ・オブ・ライフ)生活の質、人生の質、生命の質の略称。個人が暮らす文化と価値の体系を背景とした、その個人自身が置かれた生活の状況についての認識であり、当該個人にとっての目標、期待、基準及び関心に関連するもの。

コンソーシアム(共同事業体)

共通の目的を持つ複数の組織が協力するために結成する共同体。

サウンディング型市場調査

事業発案段階や検討段階において、事業内容や事業の進め方などに関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな事業提案の把握などを行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法。

デジタルデバイド

インターネットやパソコンなどの情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差。

二次避難所(福祉避難所)

災害時、指定避難所などでの生活が困難な人々(要配慮者)を対象に滞在させることを想定した二次的な避難所。(要配慮者とは、災害時において高齢者、障がい者などその他特に配慮を要する者)

野菜ソムリエ

野菜・果物の知識を身につけ、そのおいしさや楽しさを理解し、伝えるスペシャリストになるために、日本野菜ソムリエ協会が認定する資格。

瑞穂町多世代交流センター管理運営計画

発 行 令和7(2025)年3月

企画・編集 瑞穂町福祉部高齢者福祉課

住 所 〒190-1292

東京都西多摩郡瑞穂町

大字箱根ヶ崎2335番地

電 話 042-557-7623

F A X 042-556-3401(代表)